

【優秀賞】

タイトル：小さな勇気と優しい心

生徒氏名：N・Y

今年の夏休みも「町内会主催」のラジオ体操が行われた。私は、連日の部活のせいか、ねむくて、ねむくてパスする日もあったが、大人達は、とても元気でまじめ。参加者が四十名を超える日もあり、大盛況だった。

特に隣接する有料老人施設の人達が参加されている姿を見て、母は感激していた。

というのも、昨年突然住宅街に建ったこの施設。私は、「どんな人が入って来るのだろう？」と思っていた。しかし、三階建の四角いこの建物は、高級そうで、どこかちかよりがたい。

今年ラジオ体操の係だった母は、前日にドキドキしながら、思い切ってそこへ、案内チラシを届けに行ったそう。

すると、三人の人がかかさず参加され、数日後には重度の認知症の方も、職員に付き添われ、ニコニコしながら体操する姿があった。

また、母の友達がその施設に仕事で出入りしている事がわかり、施設長に町内会長と母を紹介してくれたそうで、それによって町内の人達はもちろん、私も施設の方とあいさつや会話をすることができた。

最終日には、施設から参加されているご夫婦が、持参したカメラで子供達と一緒に写真をとったりしていた。そしてさらに翌日の子供花火大会には、車イスの方達が参加され、また外出のできない人は、窓から手を振っていたりと、たくさんの方が楽しんでくれた様だった。翌日、この施設では、お祭りがあり今度は施設長さんが子供達にと、ヨーヨー釣りや的当てゲームなどの券をプレゼントしてくれた。

少しの勇気で始まった施設の人達との交流。あんなに遠い存在だった人達が、急に身近に感じた。

一生のすみかとして選んでくれたこの地域で安心して、楽しく暮らせる様、母や大人達のとった行動をしっかりと心に刻もうと思った。

また、今年川崎のいところが社会福祉士の資格をとり、大学卒業と同時に、重度の老人施設に就職した。しかし、同級生の中には「介護サービスの作成」という机上の仕事をしている。いとは資格があっても「新人は雑用からだよ。」と言われ、日々体力勝負で頑張っている。ある時、「今日は、いい事があったんだ。」と言うので何かたずねると「入浴のお手伝いをさせてもらったの。」と言います。またしばらくして「今度ね、夜勤の仕事を見せてもらえるんだよ。」と、とても大変なはずなのに仕事が増えるた

びに『喜び』と受け止めるいところ。お世話される方の笑顔まで見えてくる様だった。

実は、我が家にも八十歳を過ぎた祖母がいる。一月ほど前に「ルビー小体型認知症」と診断された。比較的軽度の為、人にはわかりづらい。私はわかっているはずなのに、同じ事を何度も何度も聞かれるとやっぱり、つい怒ってしまう。それに比べていところは、昔から我が家の祖母にも本当に優しく、祖母もいとこのいる間ずっと「ニコニコ」していた。大学で学んでは、病気を理解する事、相手を気持ち良くさせる心づかいに、ますます磨きがかかり、とても感心した。私も、いところを見習い、祖母の人格を傷つけない様、尊重する様、優しく接していこうと思います。

今年の夏は、施設の方との出会いにより様々な老後の過ごし方がある事を知り、お世話する人・される人の立場を考える機会となった。幸せは、家族と同居している・していないでなく、その中で人格が尊重されているかどうか重要である事。また「子供に迷惑をかけたくない。」と凛として生きているご夫婦がいた事。重度の認知症であっても心優しい人にお世話をしてもらえ環境であるなら、それもすばらしい余生であるという事。しかし、高齢になったからと言って粗末に扱われない様、また人間に与えられた時間の最後の最後まで、笑顔で安心して暮らせる社会になる様祈りつつ、私は祖母をはじめ、どんな人も大切に思える人間になりたいと改めて決意した。

また、いつか人の役に立てる仕事ができる様、今できる事を、一つ一つ挑戦していきたいと思う。